

1 水俣病の発生について

1-3 原因について

Q1 水俣病の原因

A1 1932年に酢酸や酢酸ビニールなどの原料となるアセトアルデヒドの製造を開始しました。その製造工程で触媒として無機水銀を使用しますが、化学反応の過程でメチル水銀を副生し、工場排水にと共に海に排出されました。メチル水銀は、プランクトン、小さい魚、大きな魚と食物連鎖により濃縮され、毎日たくさんの魚介類を人々が食べたことによって水俣病が発生しました。

Q2 医者はなぜ原因は水銀だと知らせなかったのか。

A2 当時、「原因は水銀」といえる人は誰もいなかったと思います。1956年5月1日の公式確認後、熊大の研究班が調査を行い1959年に、水俣病の原因は何らかの有機水銀でチッソ水俣工場が疑わしいと発表しました。しかし、チッソからの反論や御用学者からいろいろな異論が出され、原因の特定は遅れていきました。1962年に熊大の入鹿山教授がアセトアルデヒド製造工程の排水からメチル水銀を抽出し、原因を特定しましたが、すでに関心が薄れている状況で大きく報道されませんでした。「原因は水銀」と世の中が認識したのは、1968年に「チッソ水俣工場のアセトアルデヒド製造工程で副生されたメチル水銀化合物が原因」と厚生省から発表されてからだと思います。

Q3 魚を食べなくても水俣病になるのか。

A3 水俣病は、工場から排出されたメチル水銀により汚染された魚介類を食べることにより起こる中毒性中枢神経系疾患ですが、別の方法でメチル水銀を体内に取り込んだ場合も、水俣病と同様の病状になります。

Q4 なぜ新潟でも同様なことがおこったのか。

A4 1959年には、水銀を触媒に使うアセトアルデヒド製造工程からある種の有機水銀を副生し魚介類を汚染することが分かっていたにも関わらず、当時の政府が有効な対策を行いませんでした。そして1965年に新潟水俣病が確認されました。新潟県にある昭和電工鹿瀬工場は、チッソと同様に水銀を触媒に使う方法でアセトアルデヒドを製造しており、工場排水を処理しないまま阿賀野川に流していました。阿賀野川に流れ込んだメチル水銀は、プランクトン、小さな魚、大きな魚へと食物連鎖により濃縮され、その魚を長い間たくさん食べた人達が水俣病になりました。特に、阿賀野川が平野で流れが緩やかになった阿賀野市から下流域で多くの水俣病患者が発生しました。

Q5 どうして水俣病は、このような大きな公害病になっていったのか。

A5 水俣病の発生を確認した時点から、速やかに有効な対策を行っていれば、このような大きな公害病にはならなかったかもしれません。漁業規制や魚介類の摂食禁止、工場排水の規制、工場の操業停止など、1959年の時点では判断材料が整っていたといわれています。しかし、経済成長政策の優先とチッソと同様の工程を持つ他工場への波及を恐れて、これらの対策は行われず被害が拡大し、新潟水俣病を引き起こすことにもなりました。

Q 6 チッソで働いた人たちが水俣病の原因をいえなかったのか、そのときの気持ちはどんな気持ちだったのでしょうか。

A 6 当時は、事実を知っていたのは工場の一部の人だけだったようです。猫実験によって原因を特定したチッソ附属病院の細川院長、細川院長から報告を受けた工場幹部、原因物質の特定を命じられた社員とその上司といった人たちが工場が原因である事を知っていましたが、会社の利益を優先してその事実を隠していました。会社への忠誠心もあったでしょう。しかし、人の命よりも経済の発展を優先したことは許されることではないと、裁判等でも指摘されています。ただ、チッソに勤める人たちの中にも水俣病になったり、家族が水俣病になった人たちもいて、自分の勤める会社と患者の間で、悩み苦しんだ人もいます。